いちじまこども園新聞　　第８号　平成２７年１１月

やまぼうし

〒６６９－４３２１
兵庫県丹波市市島町上垣１３８－１
（　）０７９５－８５－２３３０
（ｆａｘ）０７９５－８５－２３３５
社会福祉法人 市島福祉会
認定こども園 いちじまこども園
http://www.ichijima-kodomoen.com

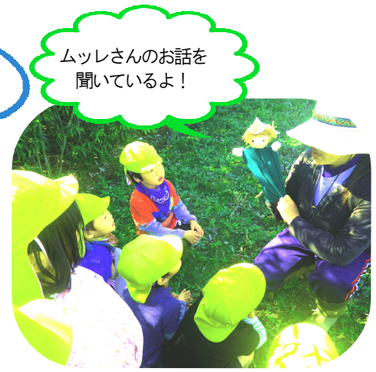
いちじま　きょう　からいっぱい　ぶんらしく　っすぐに

～自然の中は楽しいな～

いちじまこども園では、春と秋にクノッペン教室、クニュータナ教室、ムッレ教室を行っています。「ニッケさんに出会えるかな？」「今日も森まで行こー！」「虫探ししよー！」と秋の草花や虫、木の実や落ち葉などを探すことを楽しみに出掛けています。秋の自然に触れながら様々な発見を楽しんでいるところです。

クノッペン教室
（0，1，2歳児）

クニュータナ教室
（3歳児）



＊自然の役割について教えてくれています。

ムッレ教室
（4歳児）

ムッレ教室
（5歳児）

年間を通じて野外に出かけ、草花や虫たち、木や土や石などありのままの様々なものに触れ親しみながら、自然の美しさや不思議さなどへの関心を深め、生命を尊重する心や、自然を大切にする心が育つようにしています。

認定こども園いちじまこども園　平成２７年度　在籍人数

クラス / 月	きのこ組 0歳児	はっぱ組 1歳児	こえだ組 2歳児	どんぐり組 3歳児	くるみ組 4歳児	まつぼっくり組 5歳児	計
11月	8	29	26	35	43	28	169

地域別在籍人数

鴨庄	美和	吉見	地域外
35	59	57	18

子どもが幸せになれる地域とは

市島福祉会副理事長　　西山一雄

子どもとの関わりは、保育園バスの運転から始まりました。６ヶ月ほどして、朝から孫のような子どもが乗ってきて「おはよう」と言ってくれました。夕方はバス停まで送って行くと、「さようなら」と言って帰っていきました。その子どもが今では小学生になっていて、出会った時には挨拶をしてくれます。

現在、私が住む地域の小学生は３名になり子どもの数が減ってきています。先日の小学校の運動会のかけっこ競争では、１学年が４人ずつ３回ほど走ると終わってしまいました。小学校の先生は昔から「この子らは地域の宝です」と言われています。改めて今、本当にそのとおりだと思っています。

地域の子どもが増えてほしい事もありますが『子どもは地域ぐるみで、みんなで育てていこう』という願いから、自治会で本年から“赤ちゃん”が産まれるとお祝いを出し、地域みんなで喜んでいます。だから自治会のグラウンドで子ども達が遊んでいるのを見るとうれしくなります。

子ども達には善悪の区別がつく大人になってほしいと願っています。建物の屋根に上がって遊んでいることもあったので、注意した事があります。時には怒る時もあります。地域の子どもが学校の登下校で出会った時にはこちらから挨拶をするようにして、子ども達が地域の大人に親しみやすいようにしています。地域の誰もが「ダメな事はダメ」と言える事、みんなで見守り育てていく事、そういった事が子どもの幸せにつながるのではないかと思っています。

倉橋惣三の言葉
「教育される教育者」

教育はお互いである。
それも知識を持てるものが、
知識を持たぬものを教えてゆく意味では、
或いは一方が与えるだけである。
しかし、人が人に触れてゆく意味では、
両方が、与えもし与えられもする。

解説）子どもの笑顔を見ていると、こちらもつい笑顔になってしまいますね。悩みがある時も、子どもの言葉に救われることがたくさんあります。育てられ、励まされてるのは、私たちなのです。だから、人って素晴らしい。

倉橋惣三　（1882～1955）
「日本のフレーベル」あるいは「日本の幼児教育の父」と呼ばれる幼児教育学者。倉橋が展開した子どもの心に徹底的に寄り添い、子どもの遊びや自発性を重視した幼児教育論は、まさしく現代に通じるもの。誘導保育論が特に有名である。